

# 日本の城郭

城郭といえば天守があり、門や櫓が配置され、2重・3重の堀を巡らして防備を固めた施設を連想します。但し、天守を持つ城は16世紀頃から現れ、長い城の歴史の上では300年程の歴史を有するにすぎません

城は古代の城柵から幕末維新期の城まで構造・役割が異なっています。城は元来、戦闘用のものであるため、戦国時代の城は守りやすく攻めがたい山城が多く造られました。織田信長が現れ戦国時代が終焉に近づきますと、城は戦いの役割を終え権力の象徴となりました。江戸時代には城は城下町の象徴であるとともに、為政者の政庁でもありました。また、城の歴史は城下町の歴史でもありました。

[資料リスト](#)

## 城郭とは

敵の攻撃を防ぐため設けた軍事的な施設です。一般に土塁・堀・柵などで囲われ、櫓・塀などの建築物を伴うことが多く見られます。

**中世の城郭**は平地に居館を造り、周囲に堀と土塁を巡らした簡単な城郭と、居館の背後にある山の上に石垣・土塁・堀などによって台地を造り、有事の際に立て籠もって敵と戦う山上の城郭がありました。建築物としては、武士の館における周囲の塀や入口の櫓を上げた門や、山上の城郭に設置された矢狭間、石落としのある塀、井楼などがありました。

**戦国時代の城郭**は、一乗谷の朝倉氏遺跡場合、尾根の上の山城とその麓に広がる平地の朝倉氏館を中心とする城下町から成りたっています。城下町は両側を山に挟まれた狭い平地にあって、中央を川が流れています。川上と川下の山が迫って平地の幅が狭くなっている所に木戸が設けられています。建築物としては門に枳形を設けたり、屋形の屋根の上に望楼をあげたり、周囲を囲む塀に隅櫓を造るなどして城の防御を高めました。

**安土桃山時代の城郭**は、鉄炮の出現もあり山城から平地の丘の上に造られた平山城に変わっていきます。丘が無い場合は堀や石垣を巡らした平城を築きました。一般的に天守の建つ本丸を囲むように、二の丸、三の丸などの郭が配置され、石垣や堀で囲んで防備を固めました。高くそびえる天守は、天正4年(1576)に着工された織田信長の安土城が初めてと言います。安土城は天守の威容によって信長の力を天下に示そうとしたのです。信長の後を受けた豊臣秀吉は、大坂城・伏見城・聚楽第・肥前名護屋城などを築城しましたがいずれも天守がありました。

**江戸時代の城郭**は、徳川家康が江戸幕府の象徴として江戸・伏見・大坂などに大城郭を築きました。また、京都には宿館としての二条城を築きました。一方諸大名に対しては元和元年(1615)の一国一城令で居城以外の城を破却させました。幕府は領内統治の政庁としての居城は認めましたが、その修理・改築・再建などは厳しく制限しました。

## 天 守

城の中核として縄張の中心部に高くそびえる象徴的な意味を持つ楼閣です。建造物としての天守は、物見のために高く上げた井楼に始まるという説、櫓の上に望楼を上げたのが始まりとする説などがあります。永禄期(1558-1569)の尾張国楽田城天守は、5間に7間の櫓の上に、8畳敷きの2階座敷(望楼)を載せていたといわれ、丸岡城や犬山城の天守に似た形と考えられています。初期の天守は規模が大きくなっても櫓の上に望楼を載せた形式でしたが、慶長14年(1609)建築の姫路城では最上階に廻縁はなく、全体的に一体感を持った建築物になっています。また、天守ははじめ丸岡城のように独立した建物でしたが、のちには松本城のように大天守と小天守を渡櫓でつなぐ形式や、姫路城のように大天守と3基の小天守を渡櫓で口字型につなぐ形式へと発展しました。

天守が現存する12城のうち、一国一城令以前のは丸岡・松本・犬山・彦根・姫路・松江の6天守で、一国一城令以後のは弘前・高梁・丸亀・松山・宇和島・高知の6天守です。以下、12城を簡単に紹介します。

## 弘 前 城

場 所：青森県弘前市

築城年：慶長8年(1603)～慶長16年(1611)

築城者：大浦(津軽)為信・津軽信枚

城略史：大浦(津軽)為信は大浦城を本拠として元亀2年(1571)頃から津軽統一を開始しました。その際弘前市の東南部に堀越城を築いています。豊臣秀吉の奥州仕置で為信は津軽3郡を安堵され、苗字を津軽氏に改めました。文禄3年(1594)に為信は本拠を堀越城に移します。為信は関ヶ原の戦後に本領を安堵されましたが、留守中叛臣に堀越城を占拠されたため新城を築きました。弘前城は当初高岡城と呼ばれましたが、寛永5年(1628)に弘前城と改称しました。

縄 張：城は岩木川など3本の川に囲まれた約2キロ四方の地に造られ、中央に本丸、その東と南に二の丸、さらにその外側東と南に三の丸が接続する連郭式の縄張です。

天守他：本丸東南隅にある3重3階の天守は、文化7年(1810)に再建されたものです。二の丸櫓3棟・南門・東門・三の丸追手門・四の郭北門は創建当時のもので、天守とともに重要文化財に指定されています。

城 主：弘前藩主津軽氏(12代)。

## 松 本 城

場 所：長野県松本市

築城年：城の歴史は鎌倉時代末期、あるいは室町時代後期に始まるといわれます。

築城者：蟻ヶ崎地頭犬甘氏、あるいは小笠原氏の一族島立貞永ともいわれます。

**城略史**：松本城のある地域は古くは深志と呼ばれ、鎌倉時代に小笠原氏が信濃に入封以来深志は同氏の勢力下にあります。室町時代後期に小笠原氏は松本平東方の林城に居を構え、深志には支城を築きました。戦国時代になると甲斐の武田氏が信濃に進出し、天文 19 年(1550)には林城・深志城を攻略して小笠原氏を追放しました。

天正 10 年(1582)に武田氏が滅亡すると、小笠原氏が再び深志城を取戻し、地名を松本と改めました。のち天正 18 年(1590)に家康が関東に移封されると石川数正が入封し、石川氏 2 代の築城により近世城郭が誕生しました。寛永 10 年(1633)に松平直政が入封すると、天守や諸門を築造し現在の姿になったといえます。

**縄 張**：松本城は一辺が約 600m のほぼ正方形の区域に構築されています。中央に本丸とそれを囲む内堀、本丸の東・南・西側に二の丸と堀が配置され、それらを三の丸と総堀が取り囲んでいます。

**天守他**：5 重 6 階の天守・3 重 4 階の乾小天守・渡櫓・辰巳附櫓・月見櫓が現存し、いずれも国宝に指定されています。天守は慶長年間(1596-1614)に築造ともいわれ、5 重天守としては最古のものです。

**城 主**：松本藩主石川氏(2 代)、小笠原氏(2 代)、戸田氏(2 代)、松平(越前)氏(1 代)、堀田氏(1 代)、水野氏(6 代)、戸田氏(9 代)。

## 彦 根 城

**場 所**：滋賀県彦根市

**築城年**：慶長 8 年(1603)～元和 8 年(1622)

**築城者**：井伊直勝

**城略史**：関ヶ原の戦いのち、徳川家康の家臣井伊直政は石田三成の旧領 18 万石を与えられて佐和山城に入りました。直政の男直勝は慶長 8 年(1603)に新城の工事に取り掛かり、翌年佐和山城から移りました。城の工事は元和 8 年(1622)までかかり、城下町の整備は約 20 年の歳月がかかりました。

**縄 張**：城は東に佐和山、西に琵琶湖が位置する標高 136m の金亀山山頂から麓にかけて築城されています。山頂には西の丸・本丸・太鼓丸・鐘の丸がほぼ直線に連なり、それらは内堀で囲まれています。内堀の外側に二の丸、さらに中堀を隔てて三の丸があります。三の丸外堀の東と南の外周に城下町が設置されました。

**天 守**：天守は家康の命で大津城から移築したものといわれ、3 重 3 階で石垣内に階段室があります。

**城 主**：彦根藩井伊氏(16 代)

## 丸 岡 城

**場 所**：福井県坂井市(旧坂井郡丸岡町)

**築城年**：天正 4 年(1576)頃、(慶長 18 年(1613)頃とも)。

築城者：柴田勝豊

城略史：柴田勝家の甥である勝豊が、福井平野の東北部に位置する独立丘陵上に築城したといわれます。

縄張：本丸・二の丸の周囲には五角形の堀を巡らし、その外側には三の丸が配置され、さらに河川を利用した外堀を設けて町全体が惣堀で囲まれていました。

天守他：天守は単立型の外観 2 層・内部 3 階の初期望楼型天守で、1 階の広さ東西 7 間、南北 6 間、2 階と 3 階はともに東西 4 間、南北 3 間です。入母屋造の平屋の上に二階建てを載せたもので、屋根は石瓦で葺かれていて石垣は野面積みです。

城主：柴田氏以降、安井氏、青山氏、今村氏（結城秀康の家臣）、本多氏（4 代）、有馬氏（8 代）。

## 犬山城

場所：愛知県犬山市

築城年：天文 6 年 (1537)

築城者：織田信康

城略史：文明元年 (1469) 織田広近が現城山の南麓に築いたものを、織田信康が天文 6 年 (1537) に現地へ移設したといわれます。慶長 12 年 (1607) 徳川義直が名古屋藩主になると、元和 3 年 (1617) その付家老成瀬正成に 3 万石を与えて犬山城主とし、明治維新まで成瀬氏が続きました。

縄張：城は西と北に木曾川が流れる丘陵を中心とする平山城で、最北部に本丸がありその南に二の丸、三の丸などが設置され、小規模な城下町がさらに南に形成されていました。

天守他：天守は 3 層 4 階、地下 2 階、下層大入母屋屋根の上に廻縁のある望楼を載せた古式望楼式です。

城主：成瀬氏（徳川義直付家老）

## 姫路城

場所：兵庫県姫路市

築城年：貞和 2 年 (1346)

築城者：赤松貞範

城略史：城を最初に築城したのは赤松則村の二男貞範です。その後赤松氏の被官である小寺氏の居城となり、嘉吉の乱 (1441) 後には山名氏に奪われましたが、応仁の乱 (1467-1477) の際に小寺氏が奪い返しました。戦国時代には城主が頻りに変わりましたが、天文 14 年 (1545) に小寺氏の家老黒田重隆が城に入りました。重隆の孫の孝高は織田信長に誼を通じて天正 5 年 (1577) に信長の家臣である豊臣秀吉を迎え入れ、天正 8 年 (1580) には播磨を平定した秀吉に城を譲りました。秀吉の在城は 4 年程で

すが、その間に堀や石垣を整備し 3 重の天守を築いたといえます。城を現在のような規模に整備したのは池田輝政です。輝政は関ヶ原の戦後播磨 52 万石を与えられ、慶長 6 年(1601)姫路城に入りました。輝政は入城と同時に改築を始め慶長 14 年(1609)に一応の完成を見ました。

**縄 張**：池田輝政は姫山を中心とする約 100 万㎡の範囲に、内・中・外の三郭を造りました。内郭は姫山山頂から裾部にかけて置かれ、最頂部に 5 重 6 階地下 1 階の大天守とこれに連なる小天守 3 棟、及び渡櫓 4 棟を中心とする本丸が設けられました。その南に二の丸、西に西の丸、南麓に三の丸を設けました。内堀を隔てて南・北・東に中隔が、さらにその外側に外郭が置かれました。

**城 主**：赤松氏、小寺氏、山名氏、小寺氏、黒田氏、羽柴氏、池田氏、本多氏、奥平氏、松平（結城）氏、榊原氏、松平（結城）氏、本多氏、榊原氏、松平（結城）氏、酒井氏。

### 備中松山城（高梁城）

**場 所**：岡山県高梁市

**築城年**：仁治元年(1240)

**築城者**：秋庭重信

**城略史**：承久の乱(1221)の軍功で地頭に任ぜられた、秋庭重信が大松山に築城したのがはじまりです。備中守護職の高橋宗康が小松山に城域を拡大し、文和 4 年(1355)頃には北朝方の高師秀が在城しましたが、のち南朝方の山名時氏が城を落としました。その後再び秋庭氏を経て、戦国時代の城主は変転を極めました。天正 10 年(1582)には豊臣秀吉によって織田信長の支配するところになりましたが、天正 12 年には毛利氏の支配下になり、関ヶ原の戦後は小堀氏が入城しました。天和元年(1681)から同 3 年にかけて、水谷氏が連郭式の近世的な城郭を小松山に改築し、同時に山下に根小屋の整備も行いました。

**縄 張**：現在、本丸・二の丸・三の丸・諸曲輪の石垣・二重櫓・三の平櫓東土塀などが残り、平城に見られる柵形や馬走りの類がなく、場所によっては土塀の代わりに木柵が設置されるなど中世の山城的なところが残っています。

**城 主**：秋庭氏、高橋氏、高氏（北朝方）、山名氏（南朝方）、秋庭氏、上野氏、荘氏、三村氏、天野氏・桂氏。関ヶ原の戦いの後は小堀氏、池田氏、水谷氏、安藤氏、石川氏、板倉氏。

### 松江城（千鳥城）

**場 所**：島根県松江市

**築城年**：慶長 12 年(1607)～同 16 年(1611)

**築城者**：堀尾吉晴・忠氏

**城略史**：本丸などがある丘陵はかつて亀田山（極楽寺山）と呼ばれ、戦国時代には富田城主の尼子氏の出城である末次城がありました。関ヶ原の戦後堀尾吉晴が軍功を認められ、出雲・隠岐 24 万石を与えられてまず富田城に入りました。しかし、領国経営の観点から末次城跡に築城をすることとしました。吉晴は慶長 13 年(1608)頃新城に移ったといわれます。

**縄張**：亀田山の山頂の本丸には 4 重 5 階の天守があり、かつてはこれを囲むように 6 棟の櫓が配されていました。二の丸は上下二段に分かれ、本丸南側の上段には広間・書院などが置かれ、本丸東側の下段には主に米蔵が置かれました。丘陵部南麓に三の丸が置かれました。

**城主**：堀尾氏（3 代）、京極氏（1 代）、松平氏（10 代）。

## 丸 亀 城

**場 所**：香川県丸亀市

**築城年**：慶長 2 年(1597)～慶長 7 年（1602）、元和元年(1615)の一国一城令で廃城、寛永 18 年(1641)再建。

**築城者**：生駒親正、山崎家治（再建）

**城略史**：天正 15 年(1587)に讃岐の領主となった生駒親正は、高松城を居城としましたが、西讃岐支配のため標高 67m の亀山（丸亀城）に築城し、子の一正を配置しました。その後、城は元和元年(1641)の一国一城令で廃城になりました。生駒氏改易後の寛永 18 年(1641)に山崎家治が西讃岐を支配することになり、丸亀城を再建しました。万治元年(1658)京極高和が丸亀城に入り京極氏が明治維新を迎えました。

**建築物**：内堀と外堀を持ち、天守は 3 層で丘を利用した螺旋式であり、石垣は扇の勾配と呼ばれる優美な曲線を描いています。

**城主**：生駒氏、山崎氏（3 代）、京極氏（7 代）。

## 松 山 城

**場 所**：愛媛県松山市

**築城年**：慶長 7 年(1602)～

**築城者**：加藤嘉明

**城略史**：関ヶ原の戦後、加藤嘉明は伊予 20 万石を与えられました。嘉明はそれまでの居城伊予正木城に代わる新城を松山平野の中央に位置する勝山（標高 132m）に定め、慶長 7 年(1602)に築城を開始しました。翌慶長 8 年(1603)に嘉明は勝山の新城に移り、地名を松山と改めました。

**縄張**：勝山の山頂に本丸を置き、天守・小天守をはじめ主要な建物を配置しました。南西麓に二の丸、その南西に三の丸を設け、その外側を城下町にしました。

**天 守**：初めは 5 重 6 階でしたが、松平氏時代に 3 重 4 階に改められました。天明 4 年(1784)

に落雷で焼失し、嘉永5年(1852)に再興されました。

城主：加藤氏(1代)、蒲生氏(1代)、松平氏(16代)。

## 宇和島城

場所：愛媛県宇和島市

築城年：慶長元年(1596)から約6年

築城者：藤堂高虎

城略史：戦国時代に板島丸串城と呼ばれ、やがて来村西園寺氏の居城となりました。西園寺氏滅亡後、藤堂高虎がこの地を領有し慶長元年(1596)から築城しました。富田信高の領有を経て、慶長19年(1614)に伊達秀宗が城主に封ぜられました。

縄張：城は高さ80メートル程の丘陵を利用して造られており、外郭は不等辺五角形で、西と北は海に面し、他の三方は海水を利用した堀に囲まれていました。山頂に天守閣を中心とした本丸があり、その下に二の丸・三の丸などが配置されていました。

天守：天守は藤堂高虎が築き、伊達家2代宗利の時代に改装しました。天守は江戸時代初期の豪壮典雅な趣を良く現しているといわれ、山頂部に孤立し3層3重、土壇は13メートル平方です。

城主：藤堂氏(1代)、富田氏(1代)、伊達氏(9代)。

## 高知城

場所：高知県高知市

築城年：近世の城郭は慶長6年(1601)～

築城者：大高坂氏、長宗我部元親、山内一豊

城略史：もと大高坂城といい、南北朝時代大高坂松王丸が居城して南朝方の拠点でした。暦応3年(興国元、1340)に落城して廃城となります。長宗我部元親が再興して天正16年(1588)に居城としましたが、水害で再度浦戸城に移りました。関ヶ原の戦後山内一豊が土佐20万石で入部し城を築きます。慶長8年(1603)に本丸が完成し、浦戸城から移りました。慶長15年(1610)2代忠義の時に高智山と改め、以後高智城(のち高知城)と呼ぶようになりました。享保12年(1727)の大火で追手門以外はほとんど焼失しましたが、天守閣は延享4年(1747)に再建され、ほかの建物も宝暦3年(1753)までに再建されました。

天守閣：4層6階で最上層には勾欄(欄干)があります。

城主：山内氏(16代)

### 【参考文献】

- 『国史大辞典』1 犬山城(城戸久) 吉川弘文館 昭和54年
- 『国史大辞典』2 宇和島城(景浦勉) 吉川弘文館 昭和55年
- 『国史大辞典』5 高知城(山本大) 吉川弘文館 昭和60年
- 『国史大辞典』7 城郭(平井聖) 吉川弘文館 昭和61年

- 『国史大辞典』9 天守（平井 聖） 吉川弘文館 昭和 63 年  
『国史大辞典』11 彦根城・姫路城・弘前城（石丸 熙） 吉川弘文館 平成 2 年  
『国史大辞典』13 備中松山城（上原兼善）、松江城・松本城・松山城・（石丸 熙）、丸岡城（印牧邦雄）、丸亀城（木原博幸）、 吉川弘文館 平成 4 年  
『歴史群像名城シリーズ5 松本城』学習研究社 平成 7 年  
『銀嶺を望む風雪の城 城3 甲信越・北陸』 平井聖監修 毎日新聞社 平成 9 年  
『黒潮寄せる南海の海 城7 四国』 平井聖監修 毎日新聞社 平成 9 年

